

# 故矢野建一前学長の遺著『日本古代の宗教と社会』刊行



故矢野建一氏(前専修大  
学長・元文学部教授)の遺  
著『日本古代の宗教と社  
会』II写真IIが2018年  
11月20日に刊行された(端  
書房・本体12000円十  
税)。故人の遺志を継ぎ、  
学恩を受けた人々が完成さ  
せた同著について、編集に  
携わった田中禎昭文学部准  
教授に寄稿していただい  
た。

## 遺志継ぐ人々が編集

本書は、矢野氏が生前に執筆した研究論文の中から、古代宗教史に関わる主要な論文18本を選び、収録した約400ページに及ぶ大著である。著者は、四十有余年の長きにわたり日本古代史研究に専心し、学界の第一線をリードしてこられ、その研究業績の刊行は長らく待ち望まれていた。矢野氏自身も生前、出版の準備を進めていたが、16年4月25日、その日を見ることなく急逝されたのであった。

逝去の後、故人の遺志を受け継ぎ、またその業



矢野建一先生遺著出版記念

出版記念会で矢野前学長のエピソードを語る荒木名誉教授

績を後世に残していくため、矢野氏ゆかりの専修大学と立教大学の関係者が一堂に集い、編集と出版を目指すことになっ

た。交流の深かった荒木敏夫本学名誉教授をはじめ、多くの方々の支援を受け、編集作業開始から2年半でようやく発刊の日を迎えた。矢野氏の専門は日本古代の神祇祭祀研究であるが、その射程は広く、古代地域史、古代仏教史、個別氏族研究、そして古代東アジア交流史にまで及んで

いる。また、中国で「日

本」国号を刻んだ遺唐留学生・井真成の墓誌を最初に発見した研究者のひとりとしても知られた。こうした氏の多面的な研究には、日本古代の宗教を民衆社会との連関の中で捉える視点が一本の幹として太く貫かれている。

また、国家・村落・列島内諸地域として東アジア世界という、異なる位相からさまざまな宗教的テーマを取り上げられて

いる点も際立った特徴だ。古代宗教の特質を同時代の社会構造の中に位置づけた本書は、今日の古代史研究において、極めて重要な著作として評価されるだろう。

発刊後の12月9日、専

修大学と立教大学の関係者有志の主催により「矢野建一先生遺著出版記念会」が都内で催された。当日は約80人が集い、遺著と出版されたばかりの影と出版されたばかりの遺著を前に故人の思い出やエピソードを語り合い、足跡を振り返った。ご遺族や本学の佐々木重人学長、日高義博理事長も出席し、和やかな会に終始した。

出版の祝福とともに早過ぎる逝去を惜しむ声が次々に寄せられた。遺著を通して矢野氏の記憶が生き続けるようにという願いが、会場中にこだましているようであった。(田中禎昭文学部准教授)



プロ野球福岡ソフトバンクホークスの高橋礼投手(平30歳)が専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金に多額の寄付を寄せられた。12月18日、神田キャンパスを訪れ、日高義博理事長から感謝状を贈呈された。高橋投手はプロ1年目を振り返り「全身全霊でがむしゃらに走った1年だった。今年はさらに高いレベルを目指したい」と力強く語った。佐々木重人学長や法人

## ソフトバンク高橋礼投手が本学に寄付 「後輩の活躍に期待」

役員から激励を受けた高橋投手。寄付金は「野球部をはじめとして専修大学のスポーツ振興に充ててほしい」として、「後輩の皆さんの活躍を期待しています」と笑顔をみせた。

昨シーズンは終盤から存在感を示した。日本シリーズで活躍し優勝に貢献。11月の日米野球では侍ジャパンに選出された。「中継ぎ、先発どちら

もやってみて、あらためて勝つことの難しさを感じた。もっと体のコンディションを大事にしないといけない。来季の目標は新人王」と力強く宣言した。(9面に寄付者芳名)

## 四川師範大の張教授 中国刑法の課題解説

### 法学部学術講演会



講演する張教授(右)とコメントの日高理事長(左端)、唐院長

それを踏まえ、張教授は中国刑法に罪刑法定主義が導入された経緯、中国刑法と日本刑法における犯罪論の枠組みの違い、今後の中国刑法の課題について解説。「現在、中国は旧ソ連の影響を受けた刑法理論から脱却し、日本、ドイツなどの理論が徐々に導入されている。罪刑法定主義の定着のためには、実質的判断より、形式的判断を先行させることが求められている」と話した。

日高理事長は日本、中国それぞれの刑法の成り立ちに触れた上で「お互いの違いをしっかりと認識することが大切。人口、文化の違いにも着目した上で議論をすることが必要だ」とコメントした。

中国は1997年に近代刑法の基本原則である罪刑法定主義を刑法典に導入したが、これと調和しにくい犯罪概念規定が残されており、両者の関係をどう捉えるかが理論上の問題となっている。

## 知の発信



現地調査でマチュピチュを訪問(2016年)

特別寄稿 文学部教授 井上 幸孝

「古代アメリカの比較文明論(代表著:茨城大学・青山和夫教授、2014)18年度、新学術領域研究」という、大型科研に参加しています。自然科学から人文科学まで、古代から現代まで、幅広い分野の研究者が集結して南北アメリカ大陸の文明を扱い、新たな研究領域を確立することを目指しています。自然科学を中心とした高精度編年体系の確立と環境史復元、考古学を中心としたメソアメリカ比較文明史およびアンデス比較文明史、歴史学と文化人類学を中心とした植民地時代から現代の先住民文化という四つの研究班があります。さらに国際活動支援班や公募研究があり、代表・分担者と公募研究採択者だけでも40人近い研究者が参画しています。

## 科研費採択研究から

究を担当しています。普段は歴史文書を地道に読む作業が中心です。とはいえ、前身となる科研プロジェクト(環太平洋の環境文明史、08、13年度)の際と同様、今回も他分野の研究者との議論や共同研究によって次々と新しい可能性が広がっていくことに驚いています。



独特な絵で記された書物が展示された

鮮やかメキシコ絵文書 図書館生田本館で企画展 現在のメキシコを中心としたメキシコ(複製版)16点とされた絵文書を紹介する。本展示は井上幸孝文学部教授(メキシコ史)が11月26日から12月14日まで、生田キャンパスの図書本館で開催された。15、16世紀、暦や儀礼、歴史や貢納品の記録を、色鮮やかで独特な絵で記した書物のファク

## 南北アメリカ二大文明の記録を比較

古くから絵文書がありました。つまり、文字と書物を持つ文明」だったわけですが。15世紀に成立したアステカ王国や16世紀のスペインによる征服後が私の研究対象です。研究成果の社会への還元の一環として、企画展「メキシコ 絵文書に見る古代文明の歴史」を開催しました。征服前から植民地時代の絵文書の複製版等を展示し、学生や一般の見学者向けの解説をつけました。パネルなども工夫を凝らし、西洋の世界史像に偏るのではなく、地球上の文明・文化がもつダイバーシティ(多様性)が感じられる展示を目指しました。

5年間続いた本科科研プロジェクトは今年度でいったん終了します。その研究成果は、まとまった研究書や一般書としても近く公表されますので、ぜひそれらの出版物もご覧いただきたいと思っています。

(いのうえ ゆきたか) 神戸市外国語大学大学院博士課程満期退学。博士(文学)。専門は歴史学(メキシコ史)。「メソアメリカを知るための58章」(編著)、「人間と自然環境の文化誌」(共編著)ほか。